



長野県林業総合センタ - 塩尻市片丘 5739
Nagano-prefectural Forestry Research Center
TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

クズが広がる危険性があります

キ-ワ-ド：クズ、造林地、下刈り、ツル伐り

西暦2000年(平成12年)の秋は異常な高温が続きました。このためマツタケをはじめとするキノコ類の発生不良や紅葉の発色不良がみられました。このほかにも森林をはじめとして生物界はいろんな影響を受けていると推定されます。

里山を中心として、林縁部で「クズ」の異常繁殖が観察されています。今秋クズの侵入繁茂が著しかった林地では、来春～夏にかけて徹底した防除を実施しないと樹高10mを越えているような造林地も被害を受けることが予測されます。

1 クズによる被害

クズが造林地に侵入すると、造林木の枝先からツルがはい上がって樹体すべてを覆い隠してしまうため造林木は衰弱枯死します。繁茂が著しいと、造林地すべてがクズで覆われて「クズの海」が形成され、造林地は壊滅的な被害をうけます。

なお、積雪地帯ではクズにより傾斜した造林木が埋雪し易くなるため、雪害発生が著しく促進されてしまいます。

2 クズの防除方法

クズ防除は、刈り払いと薬剤処理の2種類に分けられます。侵入初期なら刈り払いで対応できますが、繁茂状態が激しくなると除草剤により根部まで枯殺しないと効果は現れません。

(1) 刈り払い(下刈り、ツル伐り)

地上部を刈り払い続けて、光合成を阻害し衰退させる方法です。同時に、造林木に絡みついて登ったツルを切り、造林木がクズの葉によって覆い尽くされることを防ぎます。

この方法はクズが繁茂する前ならば効果が現れます。



(2) 薬剤防除

浸透移行性の除草剤を利用する方法で、薬剤成分を茎葉などから吸収させてクズの生理作用を狂わせることで枯死させます。処理方法により3種類に分けられます。

株処理

クズの株頭に傷を付けて乳剤を塗布する方法と、薬剤を含浸させた楊枝状物を打ち込む方法があります。この方法はクズ繁茂が著しいと処理が困難で、効果が現れにくくなります。

< 該当商品名 ヤマクリ - N乳剤、ケイピン >

地上散布

液剤あるいは微粒剤を「手撒き」あるいは「背負い式散布機」で散布します。

クズの繁茂高さが膝下程度までは林内歩行ができるので効果がありますが、繁茂高さが腰を越えると実施には非常な困難を伴います。

< 該当商品名 ザイトロン微粒剤、ザイトロンアミン剤 >

空中散布

微粒剤をヘリコプタ - により空中散布する方法です。

気象条件による制限が大きく、また費用がかかること、空中散布に対する地域住民の理解をえる努力が必要となります。なお、当該薬剤の空中散布による環境影響性については実験散布により安全性が確認されています。

< 該当商品名 ザイトロン微粒剤 >

ク　　ズ

クズはマメ科クズ属に属する多年生ツル性草本である。8月頃に開花し10月にはサヤに入った種子を形成する。

2年生以上の地上部は木質化する。温暖湿潤な気候下では土質を選ばず旺盛に生育繁茂する。

生育盛期は年2回あり(7月下旬～8月上旬と9月～10月上旬)、最も伸長する個体では30cm/24時間という生育を示すこともある。

繁殖方法は種子による有性繁殖と、ランナ - と呼ばれるツル(茎)による無性繁殖の2種類をもつ。

種子繁殖

12月頃に成熟した種子がサヤのまま地上に落下し、翌春に発芽する。発芽率は光条件により異なり全天照度では60%程度が発芽する。なおこのうちの10%程度は翌春(2年後)に発芽したという例もあり、一部の種子は土中で休眠すると考えられる。クズのなかった場所にいきなりクズが発生し始めることがあり、風、鳥、野生動物により種子が運搬されるためと考えられる。

ランナ - による繁殖

クズ繁茂地のツル密度は、17m・16本/m²程度が平均であるが、最多では50m/m²にもなる。こうしたツルからは根が盛んに発生し、地面に接すると直ちに地中に根を張って行く。

担当者 育林部 片倉正行